

神はどこにいるのか

:

明:神は 天と被造物を超越される御方です。

目:[事イスラ ムの信条神について](#)

より: ア イシャ ステイシ

日4 Nov 2014

集日 07 Aug 2023



人は常々、人生における最も深 な疑 に いかけ けてきました。夜の静かな暗 の中、遙か
くの 大な空に星々がきらめく中、または特急 のように ぎ去る人生の日々において、あ
らゆる肌の色、人 、宗教に属する人々は自身の存在の意味について思いを巡らせ けて
きました。なぜ私たちはここにいるのか？ その意味は一体何なのか？

他の世界は存在するのか？

澄み渡った青空の下、光に溢れた素晴らしい日々の中、人々はその を太 に向け、その美
しさに感 します。 える真冬、または荒れ狂う の中、彼らは大自然の力について考え み
ます。すると心の奥底のどこかから、神の概念が浮んできます。被造物の は、心と魂
に する呼びかけです。パラパラした雪片の柔らかさ、刈りたての芝生の香り、雨 の垂
れる しい音、台 の猛威のすべては、この世界が不思 さに ち溢れていることを思い知ら
せるのです。

私たち人は苦痛や恐怖によって存在をかされたとき、人生の意味を熟考します。や悲にある中、神の概念が思い浮かび上がります。自分たちのことを宗教や精神性からよく隔たれていると思っている人々であっても、そのような状況下ではたびたび空を仰ぎ、助けを求めます。

とけ引きの中、宇宙の完全なる大きさがわになります。人生のはきと畏敬の念にたされています。それはジェットコースタのように激しいものです。喜の瞬や、深い悲しみの期もあることでしょう。人生はくなものにも成り得ますし、みのないなものにも成り得ます。神の存在とその威が明白になるにつれ、人のにはより多くの疑が出てきます。その内の避けることの出来ないものの一つとは、「神はどこにいるのか」です。

世界中では昔から、神がどこにいるのかという疑の解と格してきました。神について希求することは、人の本的な向です。古代のバビロニア人エジプト人たちは、神を探し求めて高い塔を建しました。ペルシャ人たちは、火の中に神をました。他方、北アメリカ原住民やケルト人などは、周をむ大自然のしるしの中に神をました。教徒は自己の中に神を出し、ヒンズ教ではあらゆるとあらゆる物の中に神がいると信じられています。

神への探求は、混乱しがちです。「神はどこにいるのか」というを提示すれば、それによる答えも混乱しがちです。「神はあらゆるところにいる」「神は心の中にある」

「神は善良で美しいものの中にある」しかし、心が空虚で、周りの境が悲惨でく、な合はどうなのでしょう？ そのときは神の存在がなくなってしまうのでしょうか？

もちろん、そんなはずはありません。このような混乱の中、イスラムによる神の概念は暗を照らす灯台としての役割を果たします。

神についてムスリムたちが信じていることは、明白かつです。彼らは神がどこにでもいるとは信じておらず、神は天のさらに上にいるのだと信じます。人が困の中で本能的に空を仰ぐことは、神がどこにいるのかという疑に自ずと答えます。神はクルアーンにおいて、ご自身が至高者であり、あらゆる被造物の上に君する(クルアーン 2: 255)と述べます。

神の所在に する疑 の答えは れもなく、 天の上であり、それは全被造物を超越している
という知 です。神は被造物を必要ともせず、私たち被造物こそが神を必要としている
のです。

脚注:

1

「れの教」の本文は、サヒ フ ブハ リ とムスリム、またティルミズィ とアフマドの 承集にも されています。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/2562>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。